



大洲北中学校3年

尾崎 ゆうな 優愛 さん

中学校ではバレー部の主将を務めてきた尾崎さん。ビーチバレーを始めたのは、中学2年の秋。顧問の先生からの誘いと、全国を目指す先輩たちの姿への憧れがきっかけでした。

南予地区の中学生5人で結成したチームは、今年7月の愛媛県予選で見事優勝を果たし、全国大会への切符をつかみました。「出場が決まったときは達成感がありましたが、自分たちの力がどこまで通用するのか不安もありました」と当時の胸中を明かしてくれました。

ビーチバレーの魅力は、インドアとは異なり、風や砂といった自然環境に対応しながらプレーする面白さにあります。全国大会に向け、サーブやレシーブの練習に励み、特に仲間同士で声を掛け合うことを意識してきました。

初めて挑んだ全国の舞台。全国レベルを肌で感じ、「自分たちにはないプレーを見られて勉強になりました」と振り返ります。試合では悔しさも残りましたが、サーブの上達を実感できたことや、新たな課題が見つかったことは大きな収穫となりました。

自分の強みを「粘り強くボールを追いかけるプレー」と語り、最後には「ここまで来られたのは両親や仲間、顧問の先生のおかげです」と感謝も口にします。高校でもバレーを続ける尾崎さん。周りへの感謝を胸に、これからも最後まで諦めず挑戦し続けます。

HighSchool | NOW

～市内5校の高校生によるリレーエッセイ～

Vol.116 大洲農業高等学校

大洲農業高校は、大洲市と連携し、地域の歴史文化を支えてきたハゼを核とした「ハゼの細道プロジェクト」を進めています。かつて日本有数の木蠟生産地として栄えた大洲・内子地域ですが、産業の衰退とともに、ハゼ並木や里山の荒廃、耕作放棄地の増加が課題となっています。そこで同校では、ハゼの発芽率向上を目指して水酸化ナトリウムを用いた独自の処理技術「SST法」を開発し、発芽率80%を達成。栽培を市内の協力農家へ広げ、今年度は五郎地区の市有地で荒廃農地の利活用にも取り組んでいます。さらに、木蠟を活用した「シン・和蠟燭」やせっけんを商品化するほか、観光や教育、JICA（国際協力機構）との連携など、活動の幅を広げています。

こうした取り組みが評価され、「高校生みんなの夢AWARD7」で地方創生賞、「第21回高校環境化学賞」で最優秀賞となる松居記念賞を受賞しました。今後も大洲市や地域のみなさんと連携し、ハゼを新たな地域産業として育て、失われたハゼ並木と大洲の歴史文化を未来へつないでいきます。



一回目は長浜高等学校からですー